

ESET PROTECT V9.1
オンラインヘルプ補足資料

■本書について

- 本資料は、ESET PROTECT（以降、EP）のオンラインヘルプの内容を補完する位置づけの資料です。EP を使用する際には、下記オンラインヘルプも併せて参照ください。

https://help.eset.com/protect_admin/91/ja-JP/

https://help.eset.com/protect_install/91/ja-JP/

- 本資料は、本資料作成時のソフトウェア及びハードウェアの情報に基づき作成されています。ソフトウェアのバージョンアップなどにより、記載内容とソフトウェアに搭載されている機能及び名称が異なっている場合があります。また本資料の内容は、改訂などにより予告なく変更することがあります。
- 本資料の著作権は、キヤノンマーケティングジャパン株式会社に帰属します。本資料の一部または全部を無断で複写、複製、改変することはその形態を問わず、禁じます。
- ESET、ESET PROTECT、ESET Endpoint アンチウイルス、ESET Endpoint Security、ESET Server Security for Windows Server、ESET Mail/File/Gateway Security for Linux は ESET, spol. s. r. o. の商標です。
- Microsoft、Windows、Azure は、米国Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。

■注意事項

オンラインヘルプの注意事項を以下に記載します。
オンラインヘルプに記載されている内容と異なる場合、本資料に記載された内容を正とします。

[要件とサポート対象の製品]

- 日本では以下のオペレーティングシステムがサポートされます。

OS	Server	Agent
Windows 10	-	○
Windows 11	-	○
Windows Server 2012	-	○
Windows Server 2012 R2	○	○
Windows Server 2016	○	○
Windows Server 2019	○	○
Windows Server 2022	○	○
Windows Storage Server 2012 R2	-	○
Windows Storage Server 2016	-	○
Windows Small Business Server 2011	-	○
Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 7 x86	-	○
Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 7 x64	○	○
Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 8 x64	-	○
Cent OS 7 x64	○	○
SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 12 x64	○	○
SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 15 x64	○	○
Ubuntu 16.04 Desktop x86/x64	-	○
Ubuntu 18.04 Desktop x64	-	○
Ubuntu 20.04 x64	-	○
Amazon Linux 2	-	○
Mac OS 10.12 Sierra	-	○
Mac OS 10.13 High Sierra	-	○
Mac OS 10.14 Mojave	-	○
Mac OS 10.15 Catalina	-	○
Mac OS 11.0 Big Sur	-	○
Mac OS 12.0 Monterey	-	○

- サポートされている言語は、日本語(日本)になります。

[ライセンス管理について]

オンラインヘルプに記載されている ESET MSP Administrator およびセキュリティ管理者によるアクティベーションは日本ではご利用になれません。

改訂日 2024/1/4

目次

1	サポート対象外の内容	6
1.1	サポート対象外のインストーラー	6
1.2	管理対象外の製品	6
1.3	サポート対象外の機能	6
1.4	サポート対象外の ESET ツール	7
2	注意点	7
2.1	Linux 環境に ESET PROTECT を導入する際の注意点	7
2.2	ソフトウェアインストールタスクを利用する際の注意点	7
3	自動製品アップデート無効方法	8
3.1	自動製品アップデート無効手順	8

1 サポート対象外の内容

インストールについては、オンラインヘルプの「インストール処理」の項目を参照してください。ここでは、日本でサポートの対象外となるインストーラーの提供形態や管理対象外の製品、ツール、機能について記載いたします。

1.1 サポート対象外のインストーラー

本製品を管理する以下の管理プログラムは日本ではサポートされておらず、ご利用になれません。

- ・ Azure マーケットプレイスに公開されているプログラム
- ・ Virtual Appliances(.ova ファイルなど)で提供されているプログラム
- ・ ISO イメージファイル
- ・ オンラインヘルプに公開されている各種インストーラー

1.2 管理対象外の製品

以下の製品を ESET PROTECT 9.1 で管理することはサポートされていません。

- ・ ESET Mail/Gateway Security for Linux V4.5 以下の製品
- ・ 日本ではリリースしていない製品

1.3 サポート対象外の機能

以下の機能は日本ではサポートされておらず、ご利用になれません。

- ・ ESET PROTECT API
- ・ ミラーツールを使用したオフラインリポジトリ

1.4 サポート対象外の ESET ツール

以下の ESET ツールは日本ではサポートされておらず、ご利用になれません。

- ・ ESET AV Remover

2 注意点

本製品を導入または利用する際の注意点について記載します。

2.1 Linux 環境に ESET PROTECT を導入する際の注意点

Linux 環境に ESET PROTECT Server を導入する際はインストールオプションのロケール指定を行うことをお勧めします。

ロケール指定を行わない場合、既定では[en-US]となります。「--locale=ja-JP」を指定いただくことで日本ロケールが指定されます。

2.2 ソフトウェアインストールタスクを利用する際の注意点

ソフトウェアインストールタスクで ESET 製品をインストールまたはアップデートする際、既定で「最新バージョンのインストール」にチェックが入ります。チェックが入るとリポジトリに公開されている最新バージョンをインストールします。

明示的にバージョンを指定したい場合、注意が必要です。



本設定にチェックが入るとリポジトリに公開されている
最新プログラムがインストールされる

3 自動製品アップデート無効方法

本製品を新規インストールした環境では、「すべて」の静的グループに自動製品アップデート有効のポリシーが適用された状態で作成されます。また、旧バージョンからアップデートした場合でも自動製品アップデートを有効にするように求められます。

ここでは自動製品アップデートを無効にする手順を記載します。

3.1 自動製品アップデート無効手順

本製品の自動製品アップデートを無効にする手順は以下となります。

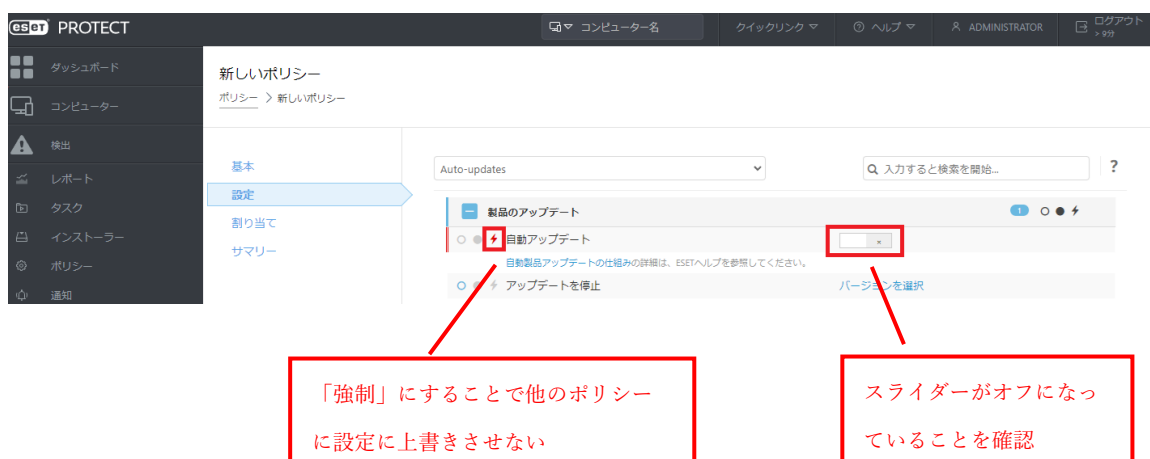
- ① コンソールより[ポリシー]をクリックし、画面下部の「新しいポリシー」ボタンをクリックします。

The screenshot displays the ESET PROTECT web interface. On the left, a dark sidebar contains navigation options: ダッシュボード, コンピューター, 検出, レポート, タスク, インストーラー, **ポリシー** (highlighted with a red box), 通知, ステータス概要, and 詳細. The main content area is titled 'ポリシー' and includes a search bar, a 'フィルタの追加' button, and a table of policies. The table has columns: 名前, ポリシー製品, タグ, and 説明. Below the table, there are buttons for 'アクション', '新しいポリシー' (highlighted with a red box), and '割り当て'. A message at the bottom states: 'ここでは、適用されたタグのリストを確認し、すばやくフィルタリングできます。'

- ② 名前に任意の名前を入力し、[設定]をクリックします。

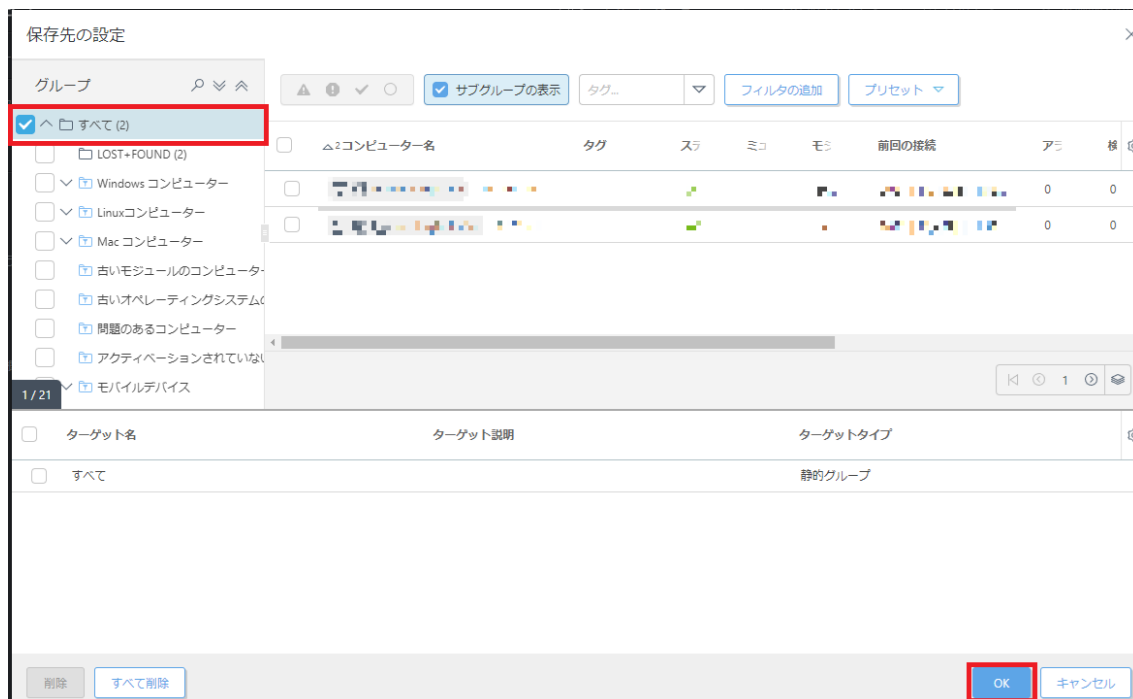


- ③ [製品を選択...]より「Auto-updates」を選択し、「自動アップデート」のスライダーバーがオフになっていることを確認して設定を強制し、[割り当て]をクリックします。

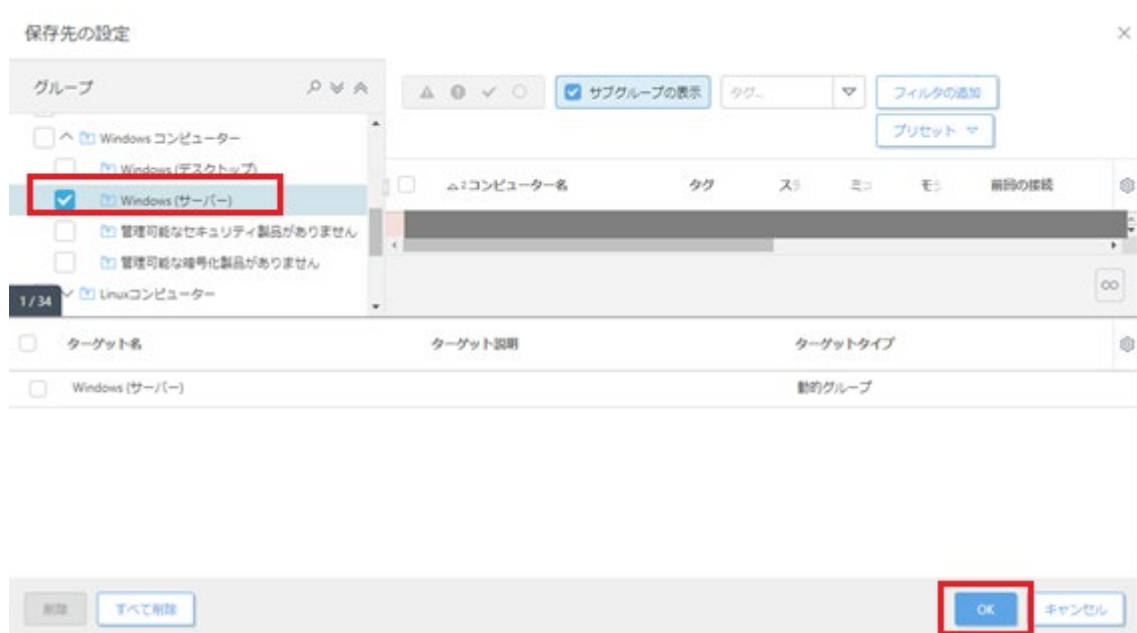


- ④ [割り当て]ボタンをクリックし、[保存先の設定]より自動製品アップデートを無効にしたいコンピューターにチェックを入れ、[OK]をクリックします。

例 1: すべてのコンピューターで自動製品アップデートを無効にしたい場合は、グループ「すべて」を選択します。



例 2: Windows サーバー製品のみ製品自動製品アップデートを無効にしたい場合は、グループ「Windows (サーバー)」を選択します。



- ⑤ [割り当て]画面にてターゲットに「すべて」が入っていることを確認し、「終了」をクリックする。

